

# 大友氏顕彰フォーラム in 国東

## 報 告 書

日 時:令和7年 11月 22(土曜日) 13:20~13:30

会 場:アストくにさき 大ホール (国東市国東町鶴川 160-2 ほか)

### 【プログラム】

12:30 受付開始

13:20 オープニング 歌唱 原川二郎(大友宗麟ほか)

司 会 藤田賢治(大友氏顕彰会理事)

13:25 主催者あいさつ／若杉孝宏(大友氏顕彰会理事長)

牧達夫(NHK 大河ドラマ推進協議会会長)

来賓あいさつ／国 東 市 市 長 松井督治様

大分県議会議員 木付親次様

国東市議会議長 元永安行様

国東市商工会会長 是松章三様

■基調講演:13:40 講師 清原 芳治(安岐町出身・元大分合同新聞社社員  
現在・大分「歴史と人物」研究会代表)

演題「六郷満山、そして田原氏と国東武士団」

休憩(5分) ステージ転換

■二部:14:40

座談会:「国東と紀氏一族と大友宗麟そして奈多氏(夫人)」

登壇者:佐藤弘俊(進行・大友氏顕彰会副理事長)、

清原芳治、牧達夫、若杉孝宏

終了 15:40

当日は秋晴れのさわやかな好天に恵まれた。来場者数は全く予測がつかず、配布資料は 130 部用意した。昨年豊後大野市開催時は 150 部用意したが足りなかつたので不安だったが、来場数は 67 名だった。100 名切るとやはり残念な気持ちになる。事前 PR が現地任せだったのと新聞記事も2日前で写真掲載がなかったのが残念だった。私自身見落としたくらいだ。

上記のプログラムによって進行した。来賓は松井市長はじめ4名の方からごあいさつをいただいた。講師の清原芳治氏は安岐町出身で現役時代仕事の関係で知己を得ており私がお願ひした。国東の中世史と云えばやはり田原氏が中心になるが、導入部はもちろん宇佐八幡と六郷満山。その後に初代の田原泰広から始めた。特に14世紀の南北朝時代は大友総領家をしのぐほどの実力を足利尊氏に認めさせた。安国寺は尊氏が全国の中心地(現在の県庁にあたる)に建立させたもので、豊後は府内ではなく国東だったのがその証である。16世紀後半日向合戦で大敗した責任者が八幡奈多宮から田原家に養子に入った親賢(紹忍)であり、大友氏滅亡の遠因となった。しかし大友氏改易後、明治まで大名として唯一残ったのが田原家から分家した吉弘一族の立花宗茂である。田原氏は、初代泰広は大友能直の妻深妙尼から冷遇されたが、大友氏の命脈を保ったのは立花家のみだったのは歴史の皮肉か。

続いて二部では顕彰会・大河ドラマ推進協の我々を交え講師と4名で討論した。テーマと若干違つたが、大友氏(=田原)下向以前の8~9世紀、国東に下向土着し在地勢力となった紀氏について。

国東は古来砂鉄を多く産出し、名刀で知られる有名な刀鍛冶の紀新太夫行平を輩出した。行平はその後府内近くの高田に移住し豊後刀を有名ならしめた。高田に移住する前の一時期現在の元町にいたそうである。後日ある参加者から紀行平の行動記録に関する件で疑問が出されたが宿題したい。

鎌倉初期田原氏が国東に土着すると紀氏一族は被官化し、戦国時代には浦部衆として佐賀関・臼杵・津久見の海部衆とともに大友水軍の一翼を担った。おもに8家を列記し、その子孫は今も多く存在する。

国東は周防灘を隔て北九州・本州と歴史的に関りが深く、明治初期豊前に編入すべきという声もあったという。九州の北東部に位置する国東は古来より文物の結節点であり、国東市民はもっとわが故郷に誇りを持ってもらいたいと、安岐町出身の清原氏ならではのことばが印象に残った。



写真上左より司会：藤田賢治、オープニング歌唱：原川二郎、顕彰会理事長・若杉孝宏、大河ドラマ会長・牧達夫  
下左より松井督治国東市長、木付親次大分県議会議員、元永安行国東市議会議員、是松章三国東市商工会会長

右下：講師：清原芳治

